

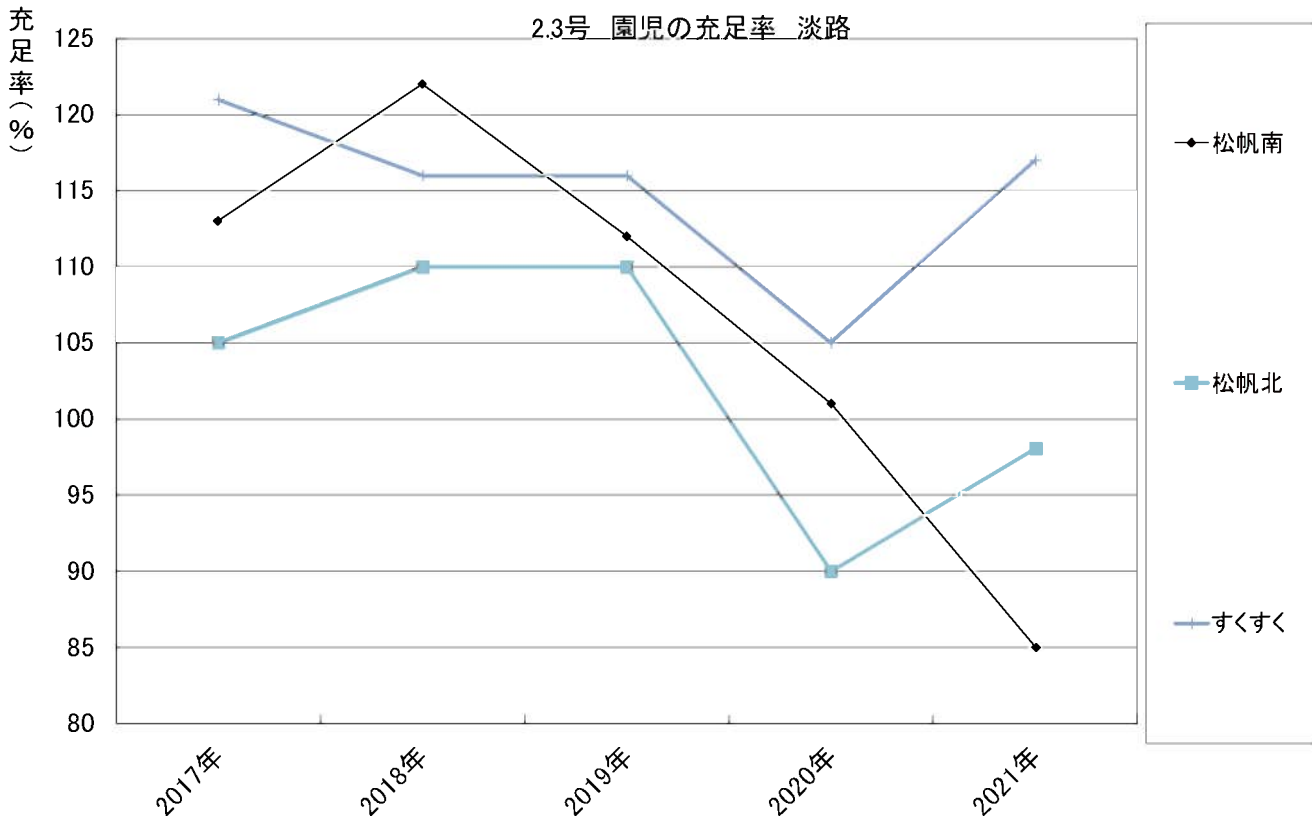
令和3年度 事業報告書

社会福祉法人みかり会

2. 3号認定園児の充足率(令和3年度)

【淡路】

(%)				(人)		
淡路(充足率)				定員		
年度	松帆南	松帆北	すくすく	松帆南	松帆北	すくすく
2017年	113	105	121	110	40	19
2018年	122	110	116			
2019年	112	110	116			
2020年	101	90	105			
2021年	85	98	117			



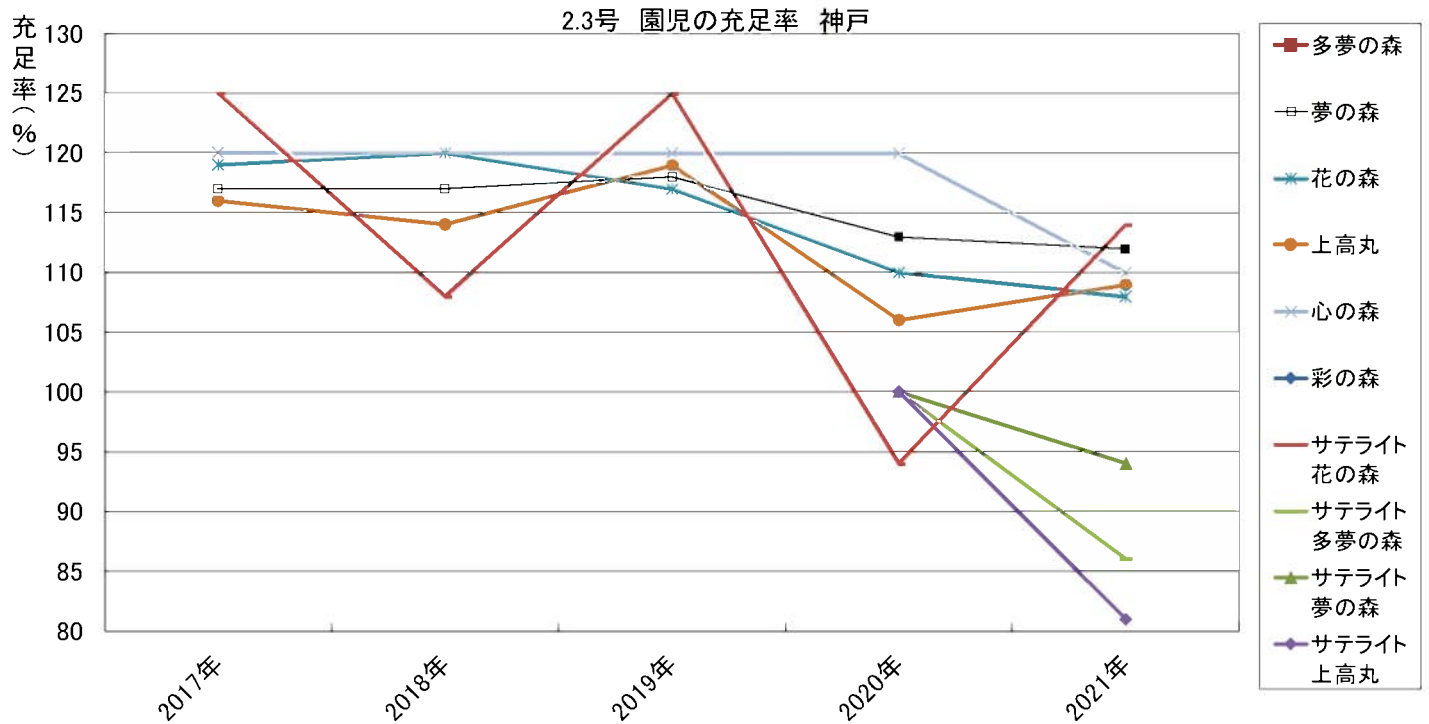
2. 3号認定園児の充足率 神戸(令和3年度)
【神戸】

(人)

定員									
多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	彩の森	サテライト 花の森	サテライト 多夢の森	サテライト 夢の森	サテライト 上高丸
90	60	80	70	60	60	12	19	19	19

(%)

神戸(充足率)										
年度	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森	彩の森	サテライト 花の森	サテライト 多夢の森	サテライト 夢の森	サテライト 上高丸
2017年	115	117	119	116	120		125			
2018年	120	117	120	114	120		108			
2019年	110	118	117	119	120		125			
2020年	101	113	110	106	120		94	100	100	100
2021年	101	112	108	109	110	88	114	86	94	81



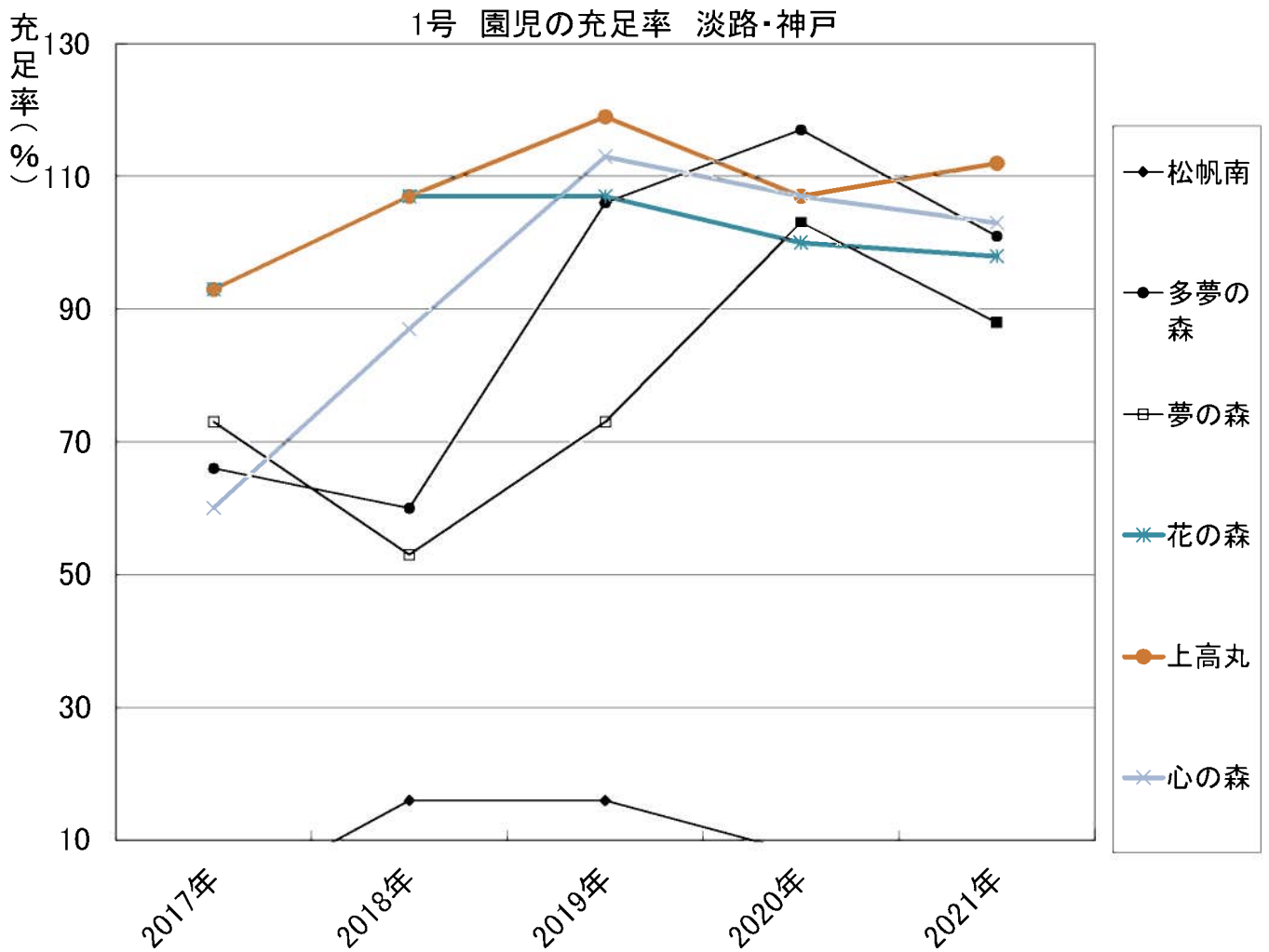
1号認定園 児の充足率(令和3年度)

充足率 (％)

年度	神戸					
	松帆南	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森
2017年	0	66	73	93	93	60
2018年	16	60	53	107	107	87
2019年	16	106	73	107	119	113
2020年	8	117	103	100	107	107
2021年	0	101	88	98	112	103

定員 (人)

年度	神戸					
	松帆南	多夢の森	夢の森	花の森	上高丸	心の森
2017年	6	15	15	15	15	15
2018年	6	15	15	15	15	15
2019年	6	15	15	15	15	15
2020年	6	15	15	15	15	15
2021年	6	15	15	15	15	15



2. 3号認定園児の充足率(令和3年度)

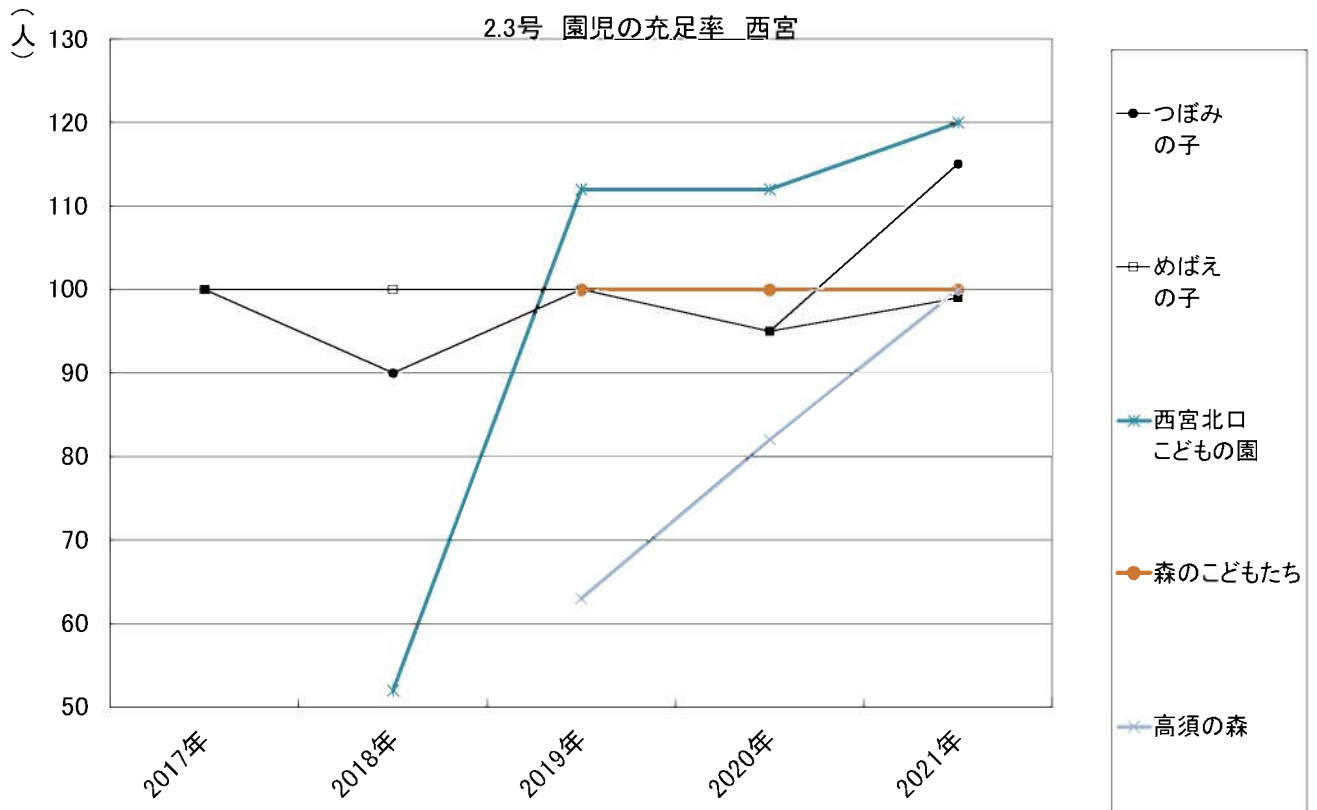
【西宮】

定員 (人)

西宮				
つぼみの子	めばえの子	西宮北口こどもの園	森のこどもたち	高須の森
20	30	50	19	120

充足率 (%)

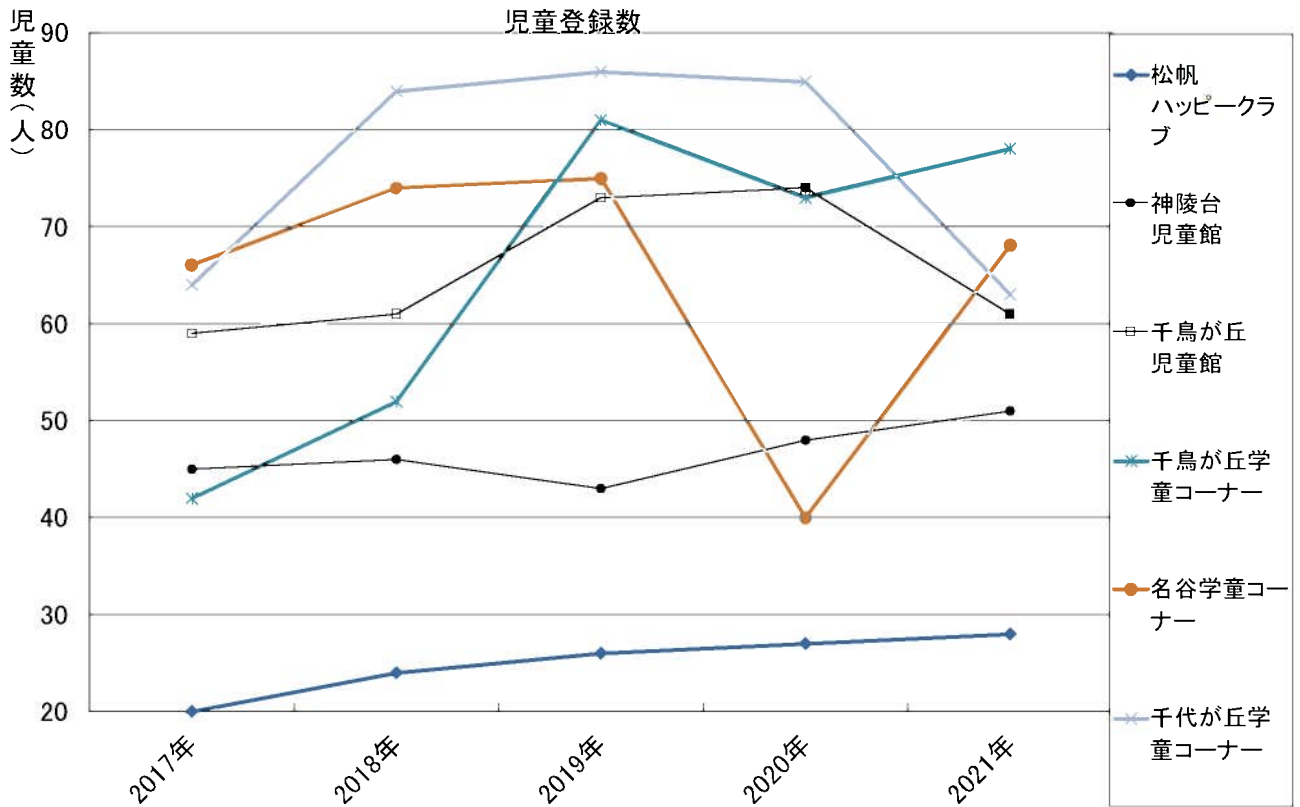
西宮					
年度	つぼみの子	めばえの子	西宮北口こどもの園	森のこどもたち	高須の森
2017年	100	100			
2018年	90	100	52		
2019年	100	100	112	100	63
2020年	95	95	112	100	82
2021年	115	99	120	100	100



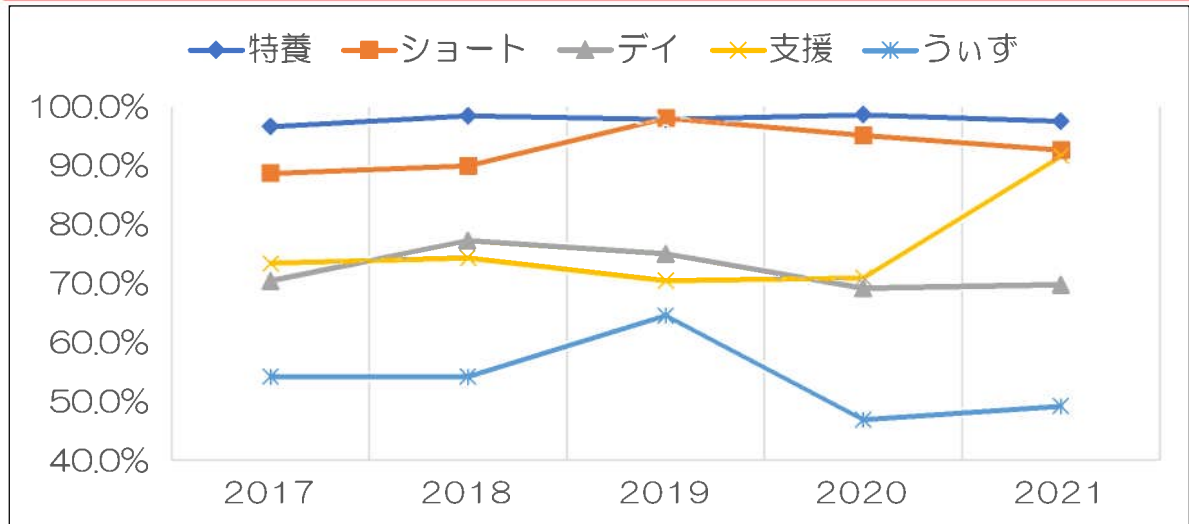
登録利用者数(年間平均)

(人)

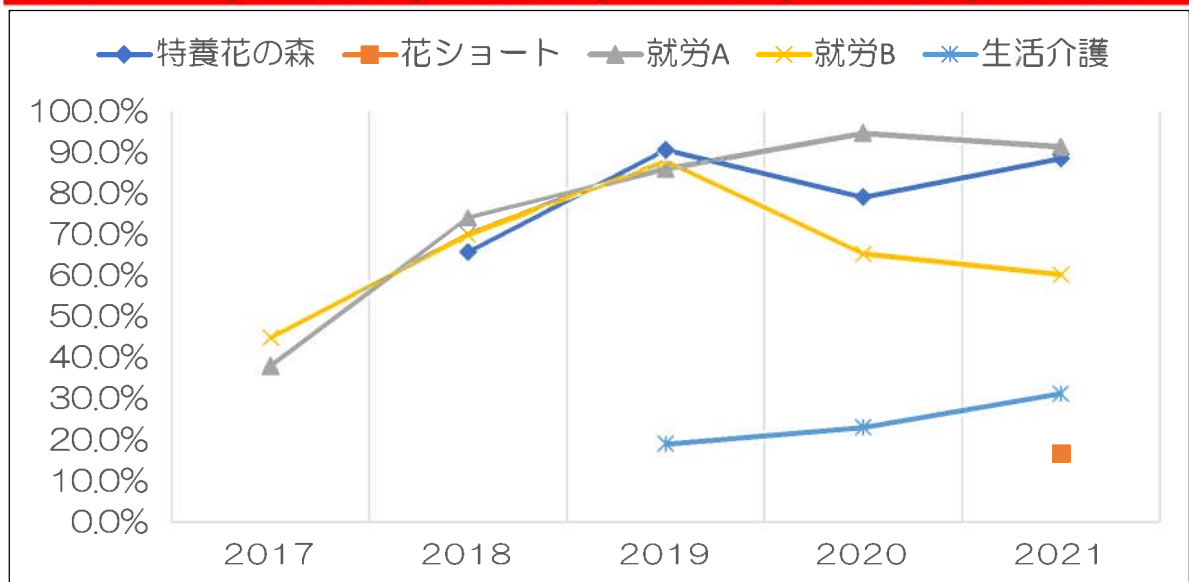
年度	淡路		神戸			
	松帆 ハッピークラブ	神陵台 児童館	千鳥が丘 児童館	千鳥が丘学童 コーナー	名谷学童コー ナー	千代が丘学童 コーナー
2017年	20	45	59	42	66	64
2018年	24	46	61	52	74	84
2019年	26	43	73	81	75	86
2020年	27	48	74	73	40	85
2021年	28	51	61	78	68	63



年度	どんぐりの里				ういず
	特養	ショート	デイ	支援	
2017	96.7%	88.8%	70.5%	73.5%	54.2%
2018	98.5%	90.0%	77.3%	74.3%	54.2%
2019	97.9%	98.1%	75.0%	70.5%	64.6%
2020	98.7%	95.2%	69.2%	71.0%	46.9%
2021	97.6%	92.7%	69.8%	91.7%	49.2%

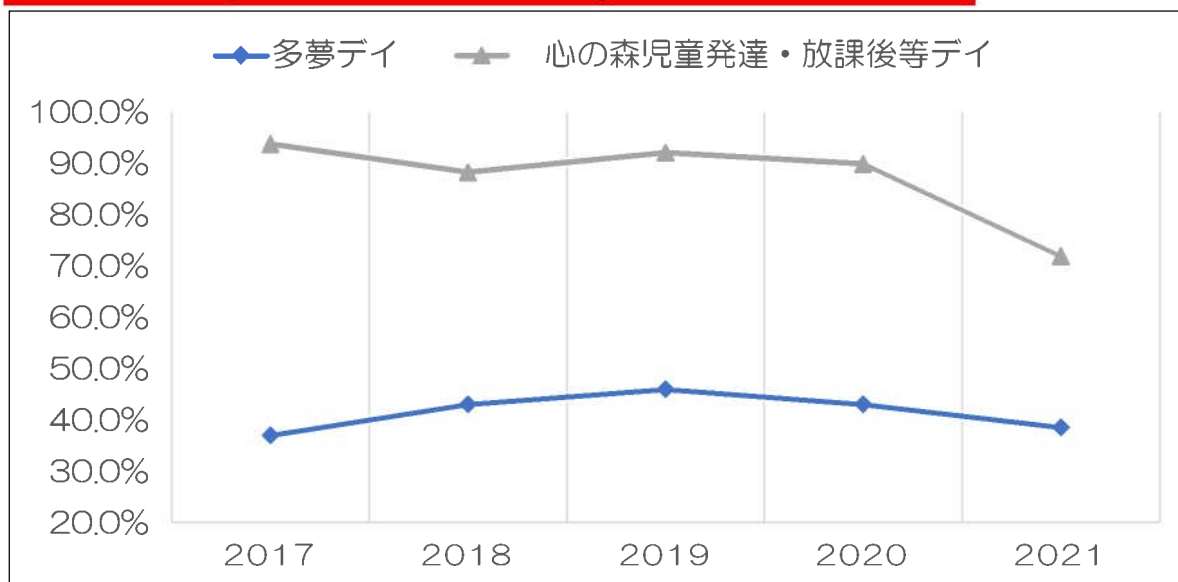


年度	特養花の森	花ショート	就労A	就労B	生活介護
2017			38.0%	45.0%	
2018	65.8%		74.0%	70.0%	
2019	90.7%		86.0%	88.0%	19.0%
2020	79.1%		94.7%	65.4%	23.0%
2021	88.6%	16.4%	91.4%	60.3%	31.3%



(※花の森ショートステイは2021年7月から稼働)

年度	多夢デイ	心の森児童発達・放課後等デイ
2017	37.0%	93.8%
2018	43.0%	88.3%
2019	46.0%	92.1%
2020	43.0%	89.9%
2021	38.5%	71.9%



令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
幼保連携 松型 帆認定 こども 園	36.こども・子ども・高齢者・ 障害者との「信任」の構築	104	〔受容的環境の確立〕 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・ 高齢者・障害者が信頼感と安心感を持って生活出来ているかの検証・改善と報告	子どもの姿を捉え、職員間で話し合いを重ねながら子どもに寄り 添った関わりをしていくための意見交換会を年間24回実施する	子どもの姿・成長について保 育を語る意見交換会を11回実 施した	45%	職員の保育に対する思いや意 見交換の場になり、共有する機 会となったが、取り組み回数が 不十分になった	職員間のコミュニケーション も日々取りながら、子どもの姿 や成長を共有する機会を、語り の場として継続していく(年4 回)
	36.こども・子ども・高齢者・ 障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予 防対策と必要な薬品や機材の整備	新型コロナウイルス感染防止対策として換気や感染予防に特化し た空気清浄機の起動を行う（開園日）	シアイーノ・オゾンエアバス ター・クリスタルイオンの起動 （開園日）	100%	シアイーノ・オゾンエアバス ター、クリスタルイオンを開園 日は起動させ、予防対策に努め た 今後も継続して実施していく	引き続き感染予防を行ってい く（開園日）
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職 員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	アンケートの実施を行い、保護者の思いや意見を聞き検証を図る （年2回アンケートの実施）	アンケートの実施(1回)	50%	11月1日～11月26日に見て みてプロジェクトを開催後にア ンケートを実施し、保護者の方 の思いを聞くことができた	保護者の思いを聞く機会とし てアンケートを実施する(年2 回)
幼保連携 松型 帆認定 こども 園	36.こども・子ども・高齢者・ 障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予 防対策と必要な薬品や機材の整備	ドアノブの消毒、消毒液の補充を確認するなど、新型コロナウ イルス感染症拡大防止に努める（開園日毎昼）	屋のクリーンタイムの時間を 設けドアノブ、棚の消毒、消毒 液の補充の確認を実施した （開園日 月～金）	83%	4月～10月は、朝、昼のク リーンタイムの時間に消毒をし たが、デルタ株が落ち着いてか らは、朝の時間のみ実施した	職員一人ひとりが危機感を持 ち、状況に応じて実施回数を調 整していく
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職 員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	みてみてプロジェクト会・ZOOM会後にアンケートの実施を行う （年2回）	5月11日～14日の期間、 ズームで保護者に向けてプロ ジェクト発表、ライブ配信を実 施、11月30日～12月9日の みてみてプロジェクト会後にア ンケートをとった	100%	アンケートをとることで、保 護者の方と子どもの成長を共有 することができた。今後も継続 し実施していく	年2回はアンケートをとり、 保護者の声を聞く機会を設ける
	38.地域との「信認」の構築	129	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対するの取り組みの実践	園周辺のゴミ拾いを月1回（半期6回）行う	4月、5月、駐車場のごみ拾い	16%	4、5月は園周辺のゴミ拾い を実施したが、それ以降は実施 できなかった。新園舎になった ことをきっかけに地域の環境問 題に対するの取り組みを検討し ていく	昨年に引き続き、駐車場のご み拾いを実施する
すく すく 保 育 園	36.こども・子ども・高齢者・ 障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予 防対策と必要な薬品や機材の整備	新型コロナウイルス感染予防のための職員会議を月1回（年12 回）開催しマニュアルの周知、確認を行う。	マニュアルの周知の職員会議 が5月21日、8月23日、9月 15日、10月20日、11月18 日、12月22日、1月20日、2 月21日、3月22日の9回開催 した	75%	職員会議の時に合わせて実施 出来たが、4月、6月、7月のみ 時間の確保が出来ずマニュアル 確認まで出来なかった。今後時 間の余裕を持った職員会議を開 催する。	引き続き職員会議の時間を有 効に使用し、マニュアルの基本 をルールづけていく。
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職 員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	年間2回サービス全般についてのアンケートを9月、2月実施、 その結果をもとに9月、2月の年2回会議を開催し検証する。	アンケートの実施ができてい ない	0%	計画はできていたが内容が絞 り込めず配布に至らなかった。 目的を明確にし実施に向けて検 討していく。	保護者の声を聞く機会をアン ケート以外の方法も視野に入れ 検討実施する。
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス 内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域との コミュニケーションの強化	隣接している病院関係5施設に4月から毎月1回園児の絵手紙を届 け交流を継続する。	隣接している病院関係5施設 に園児の絵手紙を4月13日、5 月6日、6月10日、7月16日、 8月20日、9月15日、10月13 日、11月19日、12月24日、 1月5日、2月3日、3月3日に届 けた。	100%	絵手紙を通してコミュニケー ションの強化が出来た。今後も 継続していく。	病院関係も含む更に広い地域 への発信、推進の取り組みを検 討していく。

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
多夢の森 幼保連携型認定こども園	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	マニュアル改定時に園内研修の実施をする（年間2回）	8月20日に園内研修実施 1月20日に園内研修実施	100%	両回ともにzoomにて開催 密を避け情報共有ができた	委員・管理者を中心にBCMを行う。 またそれを下に現場職員が 話し合いを行うことで各々が役割 を認識し、責任を持って十分な 対策を講じていく（年3回）
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス 内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域との コミュニケーションの強化	森のおうちに子どもの作品を掲示する際に、そのプロセスの見える 化を行うことを継続していく (前期：作品+プロセスが伝わるコメントの入れ替え2回 /後期：作品+プロセスが伝わるコメントの入れ替え2回)	5月17日、10月7日 11月8日、3月30日 に入れ替えた	100%	展示会を園内でなく森のおうち で開催（10/7、10/8）し、 作品の入れ替えを行った	保護者の方に協力を得ながら、 展示会等のイベントに地域 の方も参画いただけるような仕 組みを構築していく（年1回）
	38.地域との「信認」の構築	129	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対するの取り組みの実践	公園でのゴミ拾い・美化活動をプロジェクトとして年間8回実施	5/26、6/17に東谷公園内と 道中のゴミ拾い、花壇整備を子 どもと一緒に実施。コロナ禍に つき11/20、12/20、1 /29、3/5に花壇整備実施。 12/11、1/21、3/10にゴミ 拾いを職員、利用者で実施	100%	公園管理会の方と役割分担を 行ったことで、園内のプロシエ クトとして継続していくことが できた	展示会などを通して保護者と一 緒に考える機会を持つことで子 ども・保護者が自分事としてで きることへの気付きを促してい く（年2回）
多夢の森 幼保連携型認定こども園	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	104	〔受容的環境の確立〕 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・ 高齢者・障害者が信頼感と安心感を持って生活出来ているかの検証・改善と報告	普段の生活に関するアンケートをとり、保護者の率直な意見の検 証を図り、子どもたちが安心して過ごせるよう子どもの人権を尊重 していく（年2回アンケート実施）	DreamFestival（1回）、 SportsDay（1回）、報告会 （2回）実施	100%	保護者参加型の取り組みに関す るアンケートを実施し、評価を公 開してきたが、生活に関するアン ケートの実施に至らなかった	次年度は9月頃に日々の生活 満足度アンケートを実施し、保 護者の日頃感じている思いの収 集を行う（年1回）
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス 内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域との コミュニケーションの強化	福祉センターとの継続的な関わりを行う (コロナ禍の為密な関わりを避け、夏野菜と冬野菜の収穫時期を含め た年6回の訪問を実施)	7/5、8/23、9/6に訪問 し、なす・きゅうり・ミニトマ ト・大葉のプレゼントをした 12/20、2/7、3/7には 折り紙で作った作品をいただい た（計6回）	100%	プレゼント交換だけではある が、一年を通してきれることの ない関わりを継続し、互いに意 識し合える関係になっている	感染症の状況に合わせなが ら、できる範囲での交流を継続 していく（年6回）
	38.地域との「信認」の構築	129	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対するの取り組みの実践	地域のゴミ拾いの実施を依頼し、職員をはじめ、こどもと保護者 も環境問題に関心が持てる取り組みを行っていく (地域のゴミ拾いを年8回実施)	6/8、6/22、9/1、9/15に 園内スロープのゴミ拾いを実施 P&Gジャパン合同会社による 「オムツ回収プロジェクト」の 実施	50%	こどもたちの意欲を高める取 り組みが不十分だった	昨年度少し取り組んだリサイ クル活動への取り組みをプロ ジェクトとして進めていく ゴミ拾いを保護者も巻き込ん だ活動にしていく（親子遠足で 清掃活動を取り入れる 年1 回）
花の森 幼保連携型認定こども園	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	112	〔発生時の訓練〕 応急処置（あかいかいほちょうれんこう）、災害時等の避難、 感染症対応などの訓練の実施	リスクマネジメント委員会を中心に、災害時の引き渡し訓練など 様々な場面で計画を立て、避難訓練や感染症対応の訓練を花の森 3施設（こども園・特養・生活介護）合同で実施する（年間3回）	6/14 14時～15時 停電 （電気設備点検に伴う）の際の 災害を意識した緊急訓練を実施 9/1 10時～11時 火災避難訓練 館 内マイク放送を使用した訓練を 実施、10/18合同消防訓練 消 防署の方立会いの下訓練を実施	100%	左記の合同訓練は年間3回開催 できたが、事前の打ち合わせの 日程が合わず、書面でのやり取 りが多かった。	3施設での災害訓練は引き続き 行い（年3回）、園での引き渡 し訓練に関しては、保護者にも 意識を高めてもらえるように発 信していく（年1回）
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス 内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域との コミュニケーションの強化	HP・SNSを活用し積極的に情報発信を行ったり、隣接してい る施設と幼老障の関わりを地域へ発信したり、掲示板に発信した り、プロセスの見える化を行っていく（年間30回実施）	インスタグラム4月～3月 計16回更新 7/21 推進会議にて、併設 している特養花の森・生活介護 花の森との交流等実施内容を地 域の方に紹介。（5月は書面の み） 掲示板発信済12回	93%	インスタグラムの発信や掲示板 発信が少なかった。（計28回） 推進会議も主に書面でのやり取 りだった。（対面実施は1回）	継続して情報発信できるものは こまめに続けていき、幼老障の 関わりも対面だけでなく、 ZOOM等での関わりも深い推進 会等で伝えていく
	40.養成校・福祉を目指す学生 との「信頼」の構築	137	〔実習に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と 適切な指導の下、将来の理想の姿を迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く	実習担当者や実習生の振り返りの時間を確保し、丁寧な関わりの中 で信頼関係を深めていく（2名受け入れ予定）	8/16～27常盤大学 学生を 一名実習受け入れた （予定していた1名は自己都合 により辞退）	50%	実習担当だけでなく、様々な職 員からの声掛けも行き、専門的 な知識をアドバイスしながら丁 寧な対応を心掛けた。	今後も、学生のアルバイトや実 習を受け入れていく（実習2 名・アルバイト1名）

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
幼保連携型 上高認定 こども園	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	104	〔受容的環境の確立〕 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・高齢者・障害者が信頼感と安心感を持って生活出来ているかの検証・改善と報告	定期的な自己評価を実施し、環境の見直し・改善を図る (自己評価年間3回実施)	保育教諭自己評価表作成、自己評価を実施（2回実施済）	66%	8月、12月の2回実施、あわせて面談を実施した。新型コロナウイルス感染対応等で3回目の実施ができなかった。	次年度は、自己評価については法人実施分のみとし、面談の充実を図り（年間3回以上）意欲ある職場環境づくりの推進に努める
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	感染予防等に関する職員研修を実施する。 (感染症・保健衛生関係の園内研修を年間6回以上実施)	職員研修を4回実施 (SIDS対応：4/28.5/13、 嘔吐処理：4/23.5/20)	66%	左記の4回実施。秋冬にかけて感染症対策について実施予定であったが新型コロナウイルス感染対応等で実施できなかった。	次年度も年度初めにSIDS対応やAED研修を実施、嘔吐処理や感染症対策についても避難訓練や防犯訓練時にあわせて実施していく。
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	コラムの配信や子どもの作品展示などで地域や近隣施設に情報を発信する。（関係機関、団体への情報提供；毎月1回以上実施）	コラムを年間12回配信（近隣ふれまち他7か所） 森のハン屋さんで子どもの作品を展示、1回実施	100%	毎月コラムの配信を実施した。森のおうちへの作品展示は年間3回実施した。	配信先を地域の子育てサークル等へと広げ、園の資源を活用した新たな取り組みにつなげる
幼保連携型 心の森 認定こども園	35.職員・職員の家族との「信頼」の構築	99	〔信条の周知・徹底〕 「信条」の明確化や周知・徹底	毎月の重点項目として掲示して周知を行う（年間12回）	毎月のグループ会議内にて、重点項目の周知を図った (4/16・5/14・6/11・ 8/12・9/13・10/13・ 11/12・12/14・1/17・ 2/10・3/16の年間11回)	92%	会議の未実施の7月に周知・徹底ができなかった。 毎月の信条重点項目を設定したが、振り返りができなかった	信条の周知・徹底に努めながら、振り返りを行う機会を持つ
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	106	〔子ども・高齢者・障害者満足度の把握〕 子どもや利用いただいている方が常に主体的に満足頂いているかの検証・改善と報告	日々の教育・保育での振り返りを行い、日誌への記録を行う（毎日）	毎日のドキュメンテーションの作成を行い日誌への記録をした。（毎日）	100%	実施は出来たが、満足度の確認が行えていない	こどもが成長発達が見えてくるように、システム会社との協力して作成していく
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	在園の保護者に対する教育・保育説明会を実施する（年1回）	教育・保育説明会を実施した (10/30 AM・PM二部制)	100%	アンケート調査でも概ね良い評価をいただいた	開催の継続を行い満足度の調査を続けていく
幼保連携型 彩の森 認定こども園	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	104	〔受容的環境の確立〕 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・高齢者・障害者が信頼感と安心感を持って生活出来ているかの検証・改善と報告	子どもの様子に合わせて、エリアの見直しを行う (6回/年)	各エリアの見直しを、定期的に行った (14回/年 各階)	100%	子どもの様子観察から、物的環境の見直しは定期的に行うことができたが、人的環境の振り返りが不十分であった	年2回の自己評価を実施し、物的にも、人的にも、受容的環境が確立されているかの検証、見直しをする
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	日々のコミュニケーションに加え、保護者の思いや意向を聞く機会を設ける (1回/年 全園児保護者)	個別懇談・ふれあい週間・アンケート(2回)を実施 (4回/年 各保護者)	100%	思いや意向を汲み取る機会も増えてきており、次にそれに対する対応や取り組みが求められている	アンケート実施の継続とその結果や課題の公表をし、対応策の検討実施へと繋げていく (2回/年)
	38.地域との「信認」の構築	122	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域開かれた取り組みの積極的な実践	地域・関係機関との交流や施設開放、子育て支援事業を推進していく (60回/年)	子育て支援事業・園情報の地域配布を実施した (110回/年 152名参加)	100%	子育て支援に関しては、新たな取り組みの追加や、利用者も後半になり増えていったが、地域との関わりは進んでいない	子育て支援の継続及び地域のための自主活動を、年2回以上実施する

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
花の森 小規模保育園 サテライト型	35. 職員・職員の家族との「信頼」の構築	101	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	定時終了の呼びかけと個々の業務内容の把握を月初に行う	職員の担当業務の把握と呼びかけを月初に実施(年間12回)	100%	呼びかけることで意識はできていたが、継続が難しい	呼びかけは継続して行うとともに、業務内容の確認は月末の会議の中で行い、職員間で共有できるようにする
	36. 子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	105	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の活動の様子を動画で撮影し、月一回自ら振り返りを行うとともに職員間で意見を交わしながら、検証・改善を行う(年間12回)	アトリエやレストランでの活動の際に動画を撮影(年間6回)	50%	日程を定めていないことで慌てて撮影することが多かったため、次年度は月始めに撮影し話し合うポイントをそれぞれでまとめておいて、月末の会議の中で意見交換を行う	継続して振り返りと意見交換の場を設ける(年間12回)
	38. 地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた(情報開示・提供・公表)仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	ホームページ・SNSを活用し積極的に情報発信(年間24回)を行う	Instagram年間14回更新	58%	重要性が実感できていないことで情報発信への意識が弱い 他施設のSNSを確認する機会を作り、情報発信の重要性や発信のポイントを理解できるように取り組む	継続してホームページ・SNSを活用し積極的に情報発信を行う(年間24回)
夢の森・上高丸 小規模保育園 サテライト型	35. 職員・職員の家族との「信頼」の構築	101	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	個々の業務内容を月2回の会議の際に把握し、1日1時間の事務時間を有効に使えるよう計画する	1日30分程度の事務時間がとれている	50%	事務時間を一日30分程は取れるようになったが、休憩時間が十分に確保できていない	事務時間(30分)各自休憩時間(昼食含む)を取る(45分~1時間)
	36. 子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	105	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	活動の様子を動画で撮影し、自ら振り返りを行うとともに、月一回、職員間で意見を交わしながら、検証・改善を行う(年間12回)	活動を撮影し、その動画を使った保育検証会議(2回)	17%	動画を撮ってもプロジェクターで見ると音が小さく、声が聞こえない	子ども一人一人のWebを全職員で日々書き込み、それをもとに環境改善検討会議を行う(年4回)
	38. 地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた(情報開示・提供・公表)仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	地域への保育の取り組み発信や、教育の見える化を行っていく(年間6回)	地域の方へハジルのおすすめ分け(7/27) 施設での活動写真・作品、共生社会のポスター、InstagramのQRコードを掲示(8/14)	33%	地域への見える化、コミュニケーションが出来ていない	地域への見える化、コミュニケーションに植物を活用する・ハジル・大葉・多肉(年6回)
多夢の森 小規模保育園 サテライト型	36. 子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	105	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の活動の様子を動画で撮影し、月一回自ら振り返りを行うとともに職員間で意見を交わしながら、検証・改善を行う(年間12回)	アトリエやレストランでの活動の際に動画を撮影(年間6回)	50%	動画を見ながらの振り返りの重要性は感じられていたが、撮影するツールや場所が定まらず継続が難しい	毎月のケース会議の中でプロジェクト活動の内容を職員間で共有し、意見交換を行う(年12回)
	36. 子ども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	112	〔発生時の訓練〕 応急処置(あかいかいほちょうれんこう)、災害時等の避難、感染症対応などの訓練の実施	関係機関との連携訓練を行う(警察・消防署 各年1回)	9月13日垂水警察との連携訓練実施 10月14日火災通報訓練実施	100%	昨年度から担当者を変更したことで複数の職員が経験することができた	担当者を変更しながら継続して行っていく
	38. 地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた(情報開示・提供・公表)仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	ホームページ・SNS(年間24回)を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、法人や施設での取り組みを外向けに掲示(年2回入れ替え)を行う	Instagram年間28回更新 共生社会のポスター、InstagramのQRコードを掲示(5月) 活動の様子を外向けに掲示(10月)	100%	毎月こまめに声掛けを行うことで、情報発信への意識が高まっている	継続して行うと共に、他施設の発信内容なども共有することでより意識を高めていく

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
神 陵 台 児 童 館	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	・児童館活動の掲示や地域会議などでの発信を行い、みかり会としての取り組みを知っていただく機会にする（5回開催予定）	・写真の掲示や日頃の関わりの中で活動の発信をした ・保護者が参加できる展示会を開催した（1回）	20%	・コロナ禍で地域の方への参加呼びかけが難しかったり、開催方法が定まらなかった	・来館しなくても活動が報告、発信できるように児童館だよりの充実や、地域で掲示可能な様式があるか検討していく
	38.地域との「信認」の構築	133	〔地域活性化の取り組み〕 地域行事（まちづくり活動なども含め）への参加や共同行事の開催の企画など、地域活性化を目的とした活動の実践	コロナ禍でも地域の方と地域定例会議で関わりを持つ（12回参加予定）	・地域定例会議へ参加（10回）	83%	・学校関係や地域自治会の方々との交流の機会となり、情報共有の場になった	・定例会議に積極的に参画し、交流を深める機会とする
	39.地域の学校との「信頼」の構築	134	〔連携による課題解決〕 学校との連携により、地域の課題を解決	配慮が必要な家庭や児童について、学校との連携を図り、適切な支援、関わりを持つことができるようにする（5回訪問予定）	毎月地域会議や訪問で校長先生と話す機会を持つ（5回）	100%	・想定よりしっかりと連携を取ることができ、児童についての情報共有することができた	・継続した関わりを持っていく
千 鳥 が 丘 児 童 館	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	コロナ対策のための予防対策と機材の整備の実施（予防対策の見直しと、機材の整備を12回実施する）	予防対策の見直しや、機材の整備を行った（12回）	100%	利用者に合わせた、予防対策の実施を行っていく	感染予防を継続的に行う
	38.地域との「信認」の構築	126	〔総合相談窓口〕 地域における福祉の相談窓口の設置と機能の強化	地域の相談窓口としての機能等について、掲示等し強化していく（掲示を1回実施する）	掲示物の作成、検討を行ったが掲示はできていない（0回）	0%	地域の相談窓口機能としての掲示する	地域の相談窓口としての機能等について、掲示等し強化していく
	38.地域との「信認」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた（情報開示・提供・公表）仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	掲示物の見やすさ等を工夫し、コロナ禍で実施できる内容に工夫していく（年度始めに1回実施する）	掲示物の字の大きさや、発信時期を早める等の工夫をした（1回）	100%	掲示のタイミングを変えながら、発信していく	掲示物について、工夫していく

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施(D)	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
つばみ・保育園ばえの子	36.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	106	〔子ども・高齢者・障害者満足度の把握〕 子どもや利用いただいている方が常に主体的に満足頂いているかの検証・改善と報告	日常生活に於いて主体的な活動を把握し、個々の充足感や思いを受け止め職員間で協議するなど、継続と改善を通し質向上への意識を高く持つためのケース会議を年12回開催する	ドキュメンテーションの意図を明確にし、個別カリキュラムに連続させていくためのケース会議をした。(年60回)	100%	毎週、計画的に実施し、子ども一人一人の理解を深めた	継続的に行い、内容を充実させていく
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	行事ごとのアンケートの実施を行い、満足度の把握と課題の抽出・改善を行う。(年2回)	保護者の願いや思いを受け止め、理解した。個別懇談を実施した。(2回実施)	100%	個別懇談を行い、ゆつくり話をする機会をもつことで、子どもの成長について共有する機会となった	個別懇談だけでなく、日頃のコミュニケーションを基本とし、信頼関係を築いていく
	38.地域との「信頼」の構築	128	〔地域への見える化・見せる化〕 地域に対して法人・施設情報の提供やサービス内容の説明、開かれた(情報開示・提供・公表)仕組みづくりの推進等、地域とのコミュニケーションの強化	園内の様子や取り組み内容をHPやSNSを活用し、活動の過程にきちんと裏付けた発信内容を工夫するなど、具体的な見える化を実施する。(5回)	園内の保育活動について作品の掲示や意図を明確に伝え保護者や地域に発信した。(3回)	60%	計画的に行う事が出来ず、年3回となった。計画に盛り込み、その都度会議で職員間共有し、実施していく	何を発信していくかを明確にし、伝わる方法で見える化していく
西宮北口こどもの園	36.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	105	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	自己決定できる環境を考え、間わりや取り組みを実践・見直しをする(年間12回)	問い掛けをしたり、考える場を用意したりなど、自己決定や選択肢がある環境になっているか意見交換をした(6回開催)	50%	子どもの興味や展開を考慮しながら環境を考えたり工夫していく機会が少なかったため、意見交換の機会を設ける	研修や子どもたちの姿から、環境づくりの工夫や予測をたてるなどの意識を高める
	37.保護者との「信頼」の構築	121	〔第三者評価の受審〕 保育・介護・障害福祉サービス提供について、「第三者評価A項目」を用いての自己評価の実践	第三者評価受審後の振り返りを行い、見直しや改善を図る(年間12回)	子どもの姿や展開によって環境を改善した 養護面など個別対応や保護者とコミュニケーションを図るよう話し合った(4回)	33%	年度初めに比べ、振り返りをした意識が薄くなったが、保護者とのコミュニケーションは取れている	日頃のコミュニケーションを大事にし、保護者との信頼関係を継続する
	40.養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築	137	〔実習に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導の下、将来の理想の姿を迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く	実習生を受け入れて指導・援助をし、継続的な関わりにつなげていく(のべ3人受け入れ)	心理・社会福祉学科の学生2名と専門学校生の保育実習1名を受け入れる(のべ3名)	100%	受入予定の実習生も受け入れ、養成校とのつながりもでき実習生の採用にもつながったので、この経験を継続する	要請があれば受け入れ、丁寧な関わりをしながら職員の成長につなげる
時須の森幼稚園	36.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	105	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告	日々の子どもの観察を行い、職員間の意見を交わす園内研修を年間12回設ける	園内研修の実施をした(17回)	100%	第三者評価の勉強会やアトリエスタとの学びを職員間で語る場として活用できた	テーマを絞った内容で園内研修を年4回企画する
	38.地域との「信認」の構築	129	〔環境問題への配慮〕 地域の環境問題に対する取り組みの実践	SDGsについて職員間で情報交換し、日常の活動につながる意識を高めるための会議を5回開催する	SDGsのテーマを用いた情報交換の場を2回取り入れた	40%	保育の実践に組み込めようとしている職員がいるし、職員間の意識もめばえてきた。	意識の向上も含めて、魅せる化を行う
	40.養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築	137	〔実習に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導の下、将来の理想の姿を迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く	要請のあった実習生を受け入れる(予定3名)	実習生をのべ8名受け入れた	100%	年度当初の計画より受け入れの人数が増えたが、職員の経験につながった	職員の成長の場として、養成校との関係づくりの場として活用する
森のこどもたち	36.子ども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	114	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を整備し、それに基づく実効性のある訓練の実施	役割分担を作成・提示し、災害のBCPについても共有する(年6回)	リスク委員のBCPを元に避難訓練を実施した(3回)	50%	BCPの作成が進まず、BCPを元にした避難訓練が3回にとどまった。作成と共に日頃の訓練に組み込んでいく	BCPについて園内研修を行い、避難訓練に活かしていく
	37.保護者との「信頼」の構築	119	〔取り組みの発信〕 信頼を築くことを目的に、日頃からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信	信頼をもって日頃から関り、ポートフォリオの内容を充実させていく(計26枚)	プロジェクトごとのポートフォリオ作成・掲示した(ポートフォリオ計26枚)	100%	計画的に作成・掲示することができた。今後の内容の充実に努めていく	引き続き、日頃の取組を計画的に発信していく
	38.地域との「信認」の構築	122	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域開かれた取り組みの積極的な実践	コロナ禍でもできる支援の仕方、地域に向けて保育の発信を行う(年2回)	園外に向けてポートフォリオを1回掲示した	50%	コロナ禍での発信の仕方を模索しているところだが、施設の環境を利用し、地域向けにポートフォリオ掲示していく	コロナの状況をみながら、直接園内の取組を見てもらう機会を計画していく

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施（D）	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
どんぐりの里	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	107	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	質の向上委員を中心に現場における不適切なケア事例を集約し、職員へ周知・啓発する（集計毎月・事例検討3か月毎）	毎月集計して全職員に閲覧。3か月に1回以内に委員会内で集計内容と集計方法を協議した	100%	周知・啓発としては目標回数を達成できたが、不適切なケア自体は減っていない	引き続き啓発するとともに個別指導へ繋げる
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	114	〔災害対策〕 非常災害に対する個別の計画を整備し、それに基づく実効性ある訓練の実施	新型コロナウイルスに対するBCPの整備と訓練の実施（新型コロナBCP作成年度内）	新型コロナウイルスBCPは完成。8/16と8/18にコロナ対応訓練を実施	100%	シュミレーションとして訓練を実施できたが、参加者の中には全くBCPを理解できていない者もいた	引き続きシュミレーション訓練を中心に行い、BCPを事業所全体に浸透させていく
	40.養成校・福祉を目指す学生との「信頼」の構築	137	〔実習に対する丁寧な対応〕 福祉を目指す学生の「実習」に対し、明確な目標と適切な指導の下、将来の理想の姿を迎えるように援助し、「信頼」の関係を築く	外国人技能実習生に対して、対人援助のポイントを丁寧に指導し、介護の仕事への魅力ややりがいを伝える（4名全員JLPTN3合格）	Eラーニングを活用し介護福祉士国家試験対策に沿ったカリキュラムで学習した結果、4名中4名が合格	100%	4名全員が目標としていた日本語能力試験に合格する事ができたが、1名がプライベートでの素行不良により失踪した。生活面でのフォローアップが必要	仕事へのフォローだけでなく、プライベートへのフォローも並行して行っていく
ういず	35.職員・職員の家族との「信頼」の構築	101	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	業務安全を第一に、職員が働きやすい業務内容を組み立てる（3ヶ月に1回見直す/年4回）	毎日のミーティング内で業務内容の意見を出し合い、3か月に1回業務を見直し、改善した	100%	ICT化により書類の削減、点検表の項目の見直しなどで、業務量の軽減ができたので、継続して見直していく	職員個々の特技を生かせる場を作り、認める声をかける
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	予防対策の徹底と利用者職員の体調把握を行う（毎日）	利用者職員の感染予防対策（マスク・手洗い・検温・消毒）実施。新型コロナウイルス感染疑い（PCR検査実施者）発生時に関係機関との連絡を取り合った	100%	予防対策を徹底することで、施設内での感染は起きていない。今後も気を引き締めて予防対策に取り組む	予防対策の徹底と利用者職員の体調把握を行う
	38.地域との「信認」の構築	122	〔施設の地域への開放と活用〕 「地域共生社会の実現」につながるコミュニティ強化を目的に施設開放・活用・イベントの開催等の地域開かれた取り組みの積極的な実践	いきいき100歳体操の会場として週1回場所提供をし、地域の方に利用していただく	毎週木曜日にいきいき100歳体操の会場として開放しているが、感染予防の為、門は開けず、個別対応する	0%	感染予防から、地域の方に声を掛けづらくなり、利用者もなくなった。感染状況をみての対応が必要である	感染症の状況をみながら、カフェの再開を検討する
多夢デイ	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	マニュアルの見直し、改訂を引き続き実施。流行時の予防強化。コロナ対策の継続。（毎日）	毎日の業務の中で感染症予防に徹底し、追加・修正が必要であればマニュアルの改訂を行った	100%	職員、利用者からの陽性者はなし、他の感染症についてもなし	引き続き日々の対策を実施
	37.保護者との「信頼」の構築	116	〔保護者等のニーズの把握・理解〕 保護者や家族の声を聞き満足度を把握し、職員参加の下、保育・介護・障害福祉サービス改善の取り組みを推進	園内研修において、ご意見ご要望の聴き方や対応について理解を深める機会を設ける。相手の気持ちに寄り添った応答の仕方を学ぶ（施設会議全6回中/2回開催）	実際の場面や、日々のミーティング。また会議等で議題に上げ意識の共有を図った（年間2回）	100%	計画通り2回実施・ご家族からのクレーム・ご意見0件	連絡帳だけではなく、送迎時等で引き続き意識していく
	38.地域との「信認」の構築	124	〔地域貢献事業の推進〕 社会福祉事業以外の地域における多様（福祉ニーズ以外）な生活課題等、公益的取り組みの実践	コロナ時における取組を地域と共に思索する。（自治会総会参加1回・日々の関わり）	自治会の総会に参加。地域住民と防災備蓄、災害時の避難方法について協議	0%	参加自粛をした	コロナの状況をみながら、機会を模索していく

令和3年度事業実績報告書

施設	経営目標	No.	各会議体・委員会・担当者の役割業務（重点目標）	計画(P)	取り組み・実施(D)	評価(C) (達成度を数値表記)	課題・改善(A)	次期計画
小規模特養花の森	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	107	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	質の向上委員を中心に現場における不適切なケア事例を集約し、職員へ周知・啓発（集計3カ月毎・年4回）	職員アンケートを1回実施以降は意見箱を設置して意見を収集 法人内研修にて認知症理解、人権擁護、尊厳について学ぶ	25%	意見箱を設置して、挙がった内容に応じて個別指導を実施	質の向上委員を中心に現場における不適切なケア事例を集約し、職員へ周知・啓発する
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	感染症に対するBCPに基づき、備品の整備、訓練を実施する（研修年1回以上/訓練年1回以上）	新型コロナBCPを作成 6/8衛生研修を実施	50%	BCPに沿った訓練の企画・実施ができていない	感染症に対するBCPに基づき、備品の整備、訓練を実施する（研修年2回/訓練年1回）
	38.地域との「信認」の構築	125	〔福祉に対する理解の促進〕 法人内各施設が講習会、講演会、勉強会等を実施し、地域住民の福祉に対する理解を促進するための支援	運営推進会議などの機会に、民生委員や関係機関に向けて「幼老障共生」について意義や取り組みについて発信する（2カ月毎・年6回）	年間の運営推進会議（書面会議含み6回開催）において、花の森3施設における幼老障交流の取り組みを報告	100%	書面会議として開催回もあったが、集合会議においてはスライドを提示して報告 各利用者の表情・様子を伝え、取り組みへの評価もいただく	運営推進会議などの機会に、民生委員や関係機関に向けて「幼老障共生」について意義や取り組みについて発信する（隔月・年6回）
多夢就労支援	35.職員・職員の家族との「信頼」の構築	101	〔健全な職場環境の確立〕 ワークライフバランスを意識した職場環境づくりに努めると共に、セクハラ、パワハラのない職場づくりの推進	ハラスメントについて、学ぶ機会を設ける（年1回） （職員とA型利用者）	職員の働く上で気を付けるハラスメントのパワーポイント作成。様々なハラスメントについて知る機会を個別に設けた	100%	研修を受けると理解をする様子が見られるが、定期的に研修をする方が効果的であるように感じた	引き続き、研修などを行い健全な職場づくりを継続していく（年1回）
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	107	〔虐待を発生させない体制づくり〕 虐待を発生させないことを目的にチェックリストの活用等、職員が自己の支援について振り返る機会の提供	質の向上委員を中心に現場における不適切なケア事例を集約し、職員へ周知・啓発する（集計3カ月毎・年4回）	施設内アンケートを実施し、質の向上委員会で課題・改善法の検討を行った（年2回）	50%	質向上委員会に参加し、アンケートに基づいて協議を行ったが、毎月アンケートを取ることはできなかった。	施設内での定期的な意見交換の機会を設ける（2か月に1回）
	36.こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	111	〔感染症対策の強化〕 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づいた予防対策と必要な薬品や機材の整備	感染症に対するBCPに基づき、備品の整備、訓練を実施する（研修年1回以上/訓練年1回以上）	新型コロナのBCPを作成、BCPを共通認識する話し合いの場を8/24日に設けた	100%	必要備品や規模が季節や時期により変動するため、継続的に協議が必要である	令和6年度のBCP義務化までに繰り返し協議を続け、より良いものに改定をしていく（研修年2回/訓練年1回）

令和3年度事業実績報告書

研修委員会	1.専門知識・技術を高める 2.創造力を培う 3.論理的思考を培う 4.継続性を培う 5.コミュニケーションスキルを培う 6.リーダーシップを培う 7.公共心を培う 8.ルール・規範意識を高める 9.他者理解力を高める 10.忍耐力を培う 11.意欲を高める 12.アイデンティティを築く	1	【人材の育成】 法人の経営理念に基づいた人材育成に関する目的の明確化と、「認める」「任せる」を基本にした研修体系の構築	フィードバック研修の実施を通して、「認める」「任せる」の機会を作る（フィードバック研修7回）	研修講師を先輩職員が担うことで、「認める」「任せる」の機会を作った（7回開催）	100%	未経験の職員の機会も増やし、自信につなげる	質の向上のため、「認める」「任せる」の機会を継続する	
		6	【非正規職員研修の企画・運営】 非正規職員集合研修の企画・運営	非正規職員研修の実施（職員研修7回）	コロナ禍で対面での集合研修が難しい中、オンラインを活用し、職員研修が実施できた（6回開催）	85%	コロナ感染者の増加により、参加できる環境が整いにくいケースもふまえて、回数や時間帯の配慮をしていく	経営理念、保育理念を共有できるように、オンラインを活用し継続実施していく	
		7	【特別研修の企画・運営】 法人特別研修の企画・運営（前期）	法人特別研修を企画、運営する（特別研修7回）	研修内でプロジェクト発表を加え、講師に法人の状況を把握していただいた上で、研修を実施できた（5回開催）	70%	オンラインを活用し、充実した研修会となっていることもふまえながら、対面研修の機会も検討していく	段階別の内容をふまえて実施していく	
人材確保・定着委員会	13.良質な人材を確保する	13	【採用ツールの工夫と活用】 人材確保に向け、採用ツール（ハンフレット、チラシ、動画、HP、プレゼンテーション用スライド等）の工夫と、効果的な広報媒体（ウェブサイト、求人広告、学校訪問等）の活用	法人動画をYoutubeにて公開（2回アップ）	6/28 リクルート動画アップ 7/6 教育・保育動画アップ 12/3 心の森動画アップ 1/19 森こども動画アップ 1/21 夢の森動画アップ	100%	予定していた間隔よりも動画撮影、作成にも時間がかかる事も確認できた。動画アップの間隔の計画再編も検討していく	継続的な動画アップができるように、計画の見直しを行う	
		14.上司、部下、スタッフ同士の関わりの充実	19	【健全な職場風土の確立】 人材定着を目的とした、クラブ活動やレクリエーション等の企画・運営	コロナ禍におけるレクリエーション及び余暇活動（年/2回）	10/15 10/22 11/26 12/17 計4回 みかり会職員主催のZOOMでの交流レクリエーション「みかりトーク」を実施	100%	4回合計62名の参加あり（複数回参加者あり）活動をしている事の周知もでき、テーマの検討ができた	定期的な開催を行う為、テーマの検討、参加の促しを行う
質の向上委員会	20.受容的環境の確立	52	【受容的環境の確立】 人的・物的両面において、受容的環境を確立し、子ども・高齢者・障害者が信頼感と安心感を持って生活できる環境の確立をするための研究と報告	各施設で年3回ハイブルブックを活用し、環境・養護についての園内研修を行う	人的・物的環境について各園振り返り、ハイブルブックを活用し、実践した（1回）	30%	各施設の状況に合わせ、ハイブルブックを園内研修で活用し、内容を共有することができたが、回数が1回となったため年間の計画を早めに検討し、行っていく	養護という視点だけでなく、「養護と教育」に視点をあて、他施設と共有する機会を設けていく（年3回）	
		21.「自分らしく主体として生きること」を目指す保育・介護・障害福祉サービスの提供	57	【職員に対する倫理教育の充実】 子ども・高齢者・障害者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について、職員が認識を深めるよう人権教育等の具体的な取り組みを実施	幼児の養護と教育のハイブルブックを各施設で作成する（年3回）	5月・7月・10月・12月に各施設でハイブルブックを作成した（年4回実施） 6月に各施設が作成したハイブルブックについて委員会で話し合う中で昨年度作成のハイブルブックの様式について課題が上がり様式を新たに検討し変更した	100%	各施設課題に沿ったハイブルブックを作成する中で、しおりや教育要領を基に養護や教育について話し合い、普段の関りが正しいか見直すことができた	継続し養護と教育について話し合う機会を設けていく
		21.「自分らしく主体として生きること」を目指す保育・介護・障害福祉サービスの提供	55	【保育・介護・障害福祉サービスの自己点検及び改善】 自らの保育・介護・障害福祉サービスの提供・体制等につき、定期的な自己評価（トゥモローチャレンジ等）の実践と課題の設定及び改善	委員会毎に課題の集約。対応策に向けて検討を行い、研修や情報発信に務める（12回実施）	会議時に現場課題について協議。法人内研修に向け内容の設定を実施（9回実施）	75%	事例共有やケーススタディーを通して、現場課題への改善・解決へと繋げる	・会議時に現場課題について協議（12回実施） ・施設間交流を実施し、拠点間での連携を図る
		21.「自分らしく主体として生きること」を目指す保育・介護・障害福祉サービスの提供	58	【保育・介護・障害福祉サービスの標準化・マニュアルの策定】 必要なマニュアルや手順の策定と周知（研修含む）及び定期的な見直し	必要であれば委員会開催時に法人内で共有できるマニュアルと、各施設に特化した（把握する共有できる）マニュアルを各施設で分担し、見直しを行う（介護）（12回実施）	感染症の状況に応じてリスク委員と協力をしながら、委員会内で協議・確認を行った（9回）	75%	リスク委員会・質の向上委員会参加、情報の共有と対応策の確認を実施・マニュアルについてもコロナ用を更新した	・委員会開催毎に引き続き情勢に注視しながら遅れのない対応を心がけていく（12回）
地域貢献委員会	23.連携によるニーズの把握とスキルの獲得	61	【CSWの実践】 社会福祉法人連絡協議会での活動を通じ、CSWスキルの獲得、地域ニーズの把握・地域支援の実践	ほっとかへんネットの活動に参加し、役員法人や行政、社協とのつながりを大切にしながらオンラインを含め、できる活動の活性化をすすめる（4～8月5回・9～3月7回 参加予定）	・役員会、実務者会議等にオンラインを含め参加（12回/12回）	100%	・委員が実務者会議等に参加できる機会が少なかった	・実務者会議等の情報を積極的に発信していく	
		24.地域課題（ニーズ）への対応	68	【低所得者への配慮】 生活困窮者等、低所得者に対する支援を目的に「認定就労訓練事業」「予期せぬ妊娠」等の就労支援、また、「学習支援」「子ども食堂の運営等に積極的に取り組む	「認定就労訓練事業」の受け入れ、学習支援事業や子どもの居場所づくり事業を展開する（垂水区内12事業所）	・受け入れ申請 ・受け入れ時の内容を各事業所で整理し、マニュアル化（12事業所）	100%	・利用者やそれに携わる行政関係者の方が分かりやすいようなリーフレットを作成していく	・受け入れ態勢を整え、よりよい形で行えるように進めていく
		25.施設主義から機能主義へ	74	【地域ニーズの把握と対応】 地域住民のニーズ把握とその対応、また、新たな福祉需要への対応住民と共に地域課題を解決するための機会の設定を法人内施設において実践できるようノウハウの確立	地域住民との交流の中からニーズを拾い、そこから課題解決への方法を模索し、ポイント集のような形に作成する（6回開催予定）	・地域住民の思いを委員会で共有する（3回）	50%	・ニーズを共有したいが、件数が少なかった	・地域との関わりを意識し、積極的に報告できるようにする

令和3年度事業実績報告書

共生社会の創造委員会	26. 幼老共生社会の再構築	76	〔幼老共生の研究〕 「幼老共生」の意義（子どもにとって・高齢者にとって）を確立することを目的に、法人内研修の企画・運営とそれを説明する成果物の作成（報告含む）	法人での共生社会の創造に対する取り組みが分かる動画を1本作成する	動画作成を行い、Youtubeでの公開を行う（7/15公開）	100%	作成したままになっている状態であり、周知の場面や発信ができていない	作成した動画を地域や社会に幅広く伝えられる場面の検討を行う
	27. 幼障共生社会の構築	79	〔幼障共生の研究〕 「幼障共生」の意義（子どもにとって・障害者にとって）を確立することを目的に、法人内研修の企画・運営とそれを説明する成果物の作成（報告含む）	法人での共生社会の創造に対する取り組みが分かる動画を1本作成する	動画作成を行い、Youtubeでの公開を行う（7/15公開）	100%	作成したままになっている状態であり、周知の場面や発信ができていない	作成した動画を地域や社会に幅広く伝えられる場面の検討を行う
	28. 福祉教育の推進	83	〔福祉に対する理解の促進〕 地域住民の福祉に対する理解を促進するために、法人内各施設が講習会、講演会、勉強会等を実施しやすくするための情報提供などの支援	法人内研修での実践事例の発表（1回開催）	2/15 法人内研修にて法人内職員への取り組み周知を行う	100%	法人内でのアンケート結果により80%は理解を深めることができたと回答があり、周知することができた	過去3年間での発表資料の整理と社会への発信方法の創出を検討していく
リスクマネジメント	30. 被害規模（ダメージ）を小さくする	89	〔BCM〕 保育・介護・障害福祉サービス提供を継続するための体制を整えることを目的に、事業継続計画（BCP）の策定と訓練及びその改善	BCM・BCPが機能するか訓練を実施する（委員会所属22事業所）	BCPの訓練として実施し、法人内で報告できたのは1件。	5%	何をどのように訓練すればよいか、訓練内容が定まっていない為、次年度の計画を見直す	机上訓練（シュミレーション）や読み合わせを行い、事業所にBCPを浸透させる